

讚！加油！

研究推進部長 丹生 憲一

11月12日（金）、丹 BAL 台湾の特別講演会、野嶋剛先生による「台湾からいま日本人が学ぶべきこと」を開催しました。

今回は「修学旅行では行けないけれど、台湾に親しみを持ってもらえるように…」という先生の思いから、画像あり、音楽ありの講演会でした。冒頭に台湾各地が上空からの映像で紹介され、多様な地形、気候、そこにすむ多様な部族についてお話を聞きました。台湾の建国記念日に、16の部族がそれぞれのパートを与えられて一つの歌を歌いあげる様や、台湾の音楽大賞にあたる金曲奨の三部門を受賞した阿爆の「Thank you 感謝」の映像が流れました。そこで強調されていたのは「Respect」（敬意・尊重）という言葉でした。多様性を認め、たとえ200人しかいない部族に対しても「あなたたちの存在を無視してはいないよ」というメッセージが示されているのです。休日の台北駅に集まる外国人労働者にも同様にリスペクトが払われるという点も印象的でした。

台湾の政治についても紹介されました。新型コロナウイルスの感染を防げた第一の要因に3F（Fast Fair Fun）という考え方があったこと。武漢でウィルスが確認されてから24時間以内に、政府が情報収集から緊急会議まで動き、中国からの飛行機の上陸を止めました。（Fast）すべての国民（市民）にマスクが行きわたるよう生産体制が取られたそうです。（Fair）講演の中では触れられませんが、どこにどれだけマスクがあり、誰がマスクを受け取ったかはオンラインで把握され、その情報は全てオープンにされたので、不必要な不安に駆られることはなかったということでした。さらに、デジタル大臣のオードリー・タンが、調理器を使ってマスクの殺菌している映像が流され、緊急事態でありながらそれを茶化するような余裕も感じられたのです。（Fun）

おそらく、皆さんの関心を引いたのは、アジア初の「同性婚法制化」だったのではないのでしょうか。同性のパートナーを持つ人たちだけでなく、若者たちがその成立を喜んだという事実、「愛の形は全て平等」と同性婚を指示する立場に立った蔡英文が、彼らの票を得て、総統選を勝ち取ったという話が印象的でした。同性婚賛成の立場の人は、全体の半分ほどにも関わらず、この法が成立した背景には若者たちが投票に行き、自分達の意味を反映していることが大きいのです。「選挙に行かないことは恥」だと考えられているというも、衆議院議員選挙の投票率が55.9%だという国に生きる者には耳の痛い言葉でした。

東日本大震災の時、台湾から200億円を超える義援金が寄せられ、世論調査では「最も好きな国」に日本があがるのはなぜか？その答えは、人の繋がりにあるということでした。一青窈、安藤百福（日清食品創業者）、蓮舫、ジュディ・オング…と、以前の人権学習でも紹介された人たちの名前が挙げられ、日本統治下から日本と台湾の間に生まれた、切り離せない人と人の絆があることがわかります。自転車好きの野嶋先生は台湾一周を二回も経験されたということですが、今年、東日本大震災から10年ということで、台湾在住の日本人が台湾に感謝を伝えようと企画された「日台友情」と銘打ったツアーの様子を見ると、現代でも大切なのは人と人の関係なのだと感じられます。そういう意味でも、オンライン交流で直に台湾の高校生と繋がったみなさんは、これからの日台関係の中で大きな役割を担って行けるのではないのでしょうか。

今回の課題は、「今日の講演を通して、自分が将来台湾に行った時にやりたいと思ったこと」です。「治平や台南第一の友達に会いたい！」「小籠包を食べたい！」「大溪に行きたい！」と「やりたいこと」は様々でしょう。そこにちょっと、講演中に聞いたことを思い出して、どんなことができるかを考えてみてください。

「讚（ザン）！=いいね」「加油（ジャーヨウ）！=がんばれ」と、台湾の友達に面と向かって言える日が来ることを願っています。



日台友情サイクリング動画

国境を越えた友情

オンライン交流を行った治平高級中学が、以下のような記事と感想を送ってくれましたので紹介します。

去年の9月から、大溪日本語ガイドセンターのおかげで、我々は兵庫県の丹波市にある柏原高校とビデオストリーミングで交流活動を始めさせていただきました。

この度は我々が初めての学校間のネットワークを利用した交流活動です。自己紹介の時、みなさんが楽しく踊ることやピアノ弾き語りなどだけでなく、お互いに自らの高校の生活や有名な観光地も紹介しました。温度がないスクリーンを通して、初めての交流でわくわくする気持ちも依然として感じられました。

治平高校で会えると思ったんですけれども、コロナウイルスのため、ビデオストリーミングでしかお互いの文化や友情を伝えられません。9月14日には今年1回目の交流会でした。交流のテーマは異文化の交換というのです。お互いに2分くらいの動画を作成し、柏原高校の学生さんは丹波市の特産や恐竜の化石を紹介した一方、我々は桃園大溪で有名な食べ物や桃園神社の歴史や客家文化などについて紹介しました。11月2日は2回目の交流会でした。交流のテーマは防災及びコロナウイルスです。阿蘇火山と桜島火山の噴火を中心に紹介していただきましたが、火山噴火の恐れがない我々にとっては、とても貴重な経験になりました。それに対し、台湾における様々なコロナの対策のみならず、経済における産業の変化や日本からいただいたワクチンの寄付への感謝する気持ちなどを発表しました。

正直に言うと、日本語が流暢に話せないことや文法が間違っただけでも心配しましたが、いつも肯定してくださいまして誠にありがとうございます。また、「KING」及び「校長通信」に交流活動を記録してくださいましたし、更に我々の大溪撮影作品も展示させていただき、本当に心から感謝申し上げます。国境を超えたこの2000キロ隔たっている友情を大切にしていって、早く会える日を楽しみにしています。柏原高校、どうもありがとうございました。（以下は治平高校生徒達の交流感想）

三年愛組 車の友達

このたび、二回のビデオストリーミングを通して、私は多くのことを学んだと思います。おそらく初対面や言語の違いなので、途中で少し気まづくなることもありましたが、最後まで頑張って日本語で楽しく喋りました。今度は初めて日本の方と話したので、とても楽しくて忘れられない思い出になりました。



三年愛組 キリン

今回と前回の交流はとても楽しかったです。僕は初めて同齢の日本の方と喋って、途中で話題がなくなり、何も話さない時もありましたが、日本の学生は色々な話題を考えてくれたし、会話もすらすらと出てきました。しかし、時間が足りないのは残念ですね～また、言葉がわからない時には「すみません、もう一回お願いします」と言ったら、ゆっくり説明してもらい、みんなめっちゃ優しいと思います！！本当に楽しかった！



三年愛組 フルファ

日本の方と交流するのは今回が初めてです。とても緊張していました。自己紹介を通して、お互いの個性と興味を知りました。また、防災の知識を分かち合った時、日本の防災活動はどうやって行われるのか、未来の計画は何なのかも知りました。コミュニケーションの時間が長くないんですが、紙で道具として使ったり、たくさんのお話が出てきたりして、日本の学生さんが優しくて、親切だと私は思います。